

整形外科学：骨端症

41-089 下肢の骨端症と好発部位との組合せで正しいのはどれか。

- ア. 第1ケーラー病—踵骨 **足の舟状骨**
 - イ. 第2ケーラー病—舟状骨 **中足骨**
 - ウ. セバー病—中足骨 **踵骨**
 - エ. オスグッド・シュラッター病—脛骨結節
 - オ. ペルテス病—大腿骨骨頭
1. ア、イ 2. ア、オ 3. イ、ウ
4. ウ、エ 5. エ、オ

42-088 小児期の疾患でないのはどれか。

- 1. キーンベック病 **20~30代 男性**
- 2. ショイエルマン病 **思春期**
- 3. セバー病 **10才前後**
- 4. ペルテス病 **5~10才**
- 5. 第1ケーラー病 **4~8才**

44-075 女兒に多い骨端症の罹患部位はどれか。

- 1. 大腿骨骨頭 — **ハイルテス病**
- 2. 脛骨粗面 — **オスグッド・シュラッター病**
- 3. 踵骨 — **セバー病**
- 4. 足の舟状骨 — **第1ケーラー病**
- 5. 第2中足骨 — **第2ケーラー病**

43-082 幼児期に好発する骨端症はどれか。2つ選べ。

- 1. Perthes(ペルテス)病 **5~10才**
- 2. Osgood(オスグッド)病 **12~15才**
- 3. Kienböck(キーンベック)病 **20~30代**
- 4. 第1Köhler(ケーラー)病 **4~8才**
- 5. Schuermann(ショイエルマン)病 **12~15才**

45-P-087 Osgood-Schlatter 病で正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1. 運動時痛がある。 **大腿四頭筋に炎症が起される。**
- 2. 女兒の罹患率が高い。 **男子**
- 3. 大腿骨顆部に圧痛がある。 **脛骨粗面(膝蓋腱停止部)**
- 4. 大腿四頭筋筋膜に部分断裂を生じる。 **脛骨粗面の壊死**
- 5. 骨端線の閉鎖以降に症状は消失しやすい。 **(成長期の病気)**

48-P-077 骨端症と発生部位についての組合せで正しいのはどれか。

- 1. Osgood-Schlatter 病——**大腿骨頭 脛骨粗面**
- 2. 第1Köhler 病——**踵骨 足の舟状骨**
- 3. Kienböck 病——**月状骨**
- 4. Perthes 病——**脛骨粗面 大腿骨頭**
- 5. Sever 病——**足舟状骨 踵骨**

骨端症

- ・ 成長期の骨化核(骨を作るセプター)が障害されて痛みが起される。
- ・ スポーツによるもの(腰の牽引力)に、オスグッド・シュラッター病、セバー病がある。
- ・ 体重がかかり圧迫を受けているものに、ハイルテス病、第1ケーラー病、第2ケーラー病がある。
- ・ 治療は負荷、運動制限である。

○ **ハイルテス病**

幼児期~小学生 男児
大腿骨頭
非転換拘装具

○ **第1ケーラー病**

幼児期~小学生 男児
足の舟状骨

○ **第2ケーラー病 (フライバーク病)**

思春期 女子
中足骨

○ **ショイエルマン病**

思春期、やや男>女
脊椎 → 内骨

○ **オスグッド・シュラッター病**

高学年~中学生 男子
脛骨粗面

○ **セバー病**

中学年 男子
踵骨

○ **キーンベック病**

10~15才 男子
上腕骨小頭

○ **キーンベック病**

20~30才の手首をよく使う男性
月状骨